



の女性が一生(15〜49歳)の間に産む子どもの数は1・84です。ちなみに、全国の合計特殊出生率は1・36です(現在の人口を維持するためには、2・08が必要とされています)。意識調査の結果でも、少子化が進む原因として、育児にかかる経済的負担が大きいことや、仕事と育児の両立の難しさなど、子育てにくい社会環境であることがあげられています。川内市で安心して子どもを産み育てられるよう、保育サービスの充実や児童クラブの開設、他の町に先駆けて行っている病児保育など子育てのための環境整備事業に、今後と

も積極的に取り組んでいきたいと思っています。そうすることにより、おのずと人口増加率もアップするのではないのでしょうか。

Q

職場は男性主体で、役職につける女性は少ないという現実があります。市役所内での女性の役職登用についてお聞かせください

今まで一般的に女性は補助的な仕事をするのだという考え方があり、行政自体もそういう固定観念がありました。現在、川内市では女性の管理職への登用率が4・7%とまだまだですが、同じ試験を受けて採用されているわけですから、まずは人材養成に努め、早い段階で登用率を10%まであげていきたいと考えています。

併せて、審議会などの女性の登用率が20・6%と県平均の19・5%を少し上回ってはいますが、これについては平成20年度までに30%達成を目標に取り組んでいます。今回制定した「男女共同参画基本条例」では、「男女のいずれか一方が委員総数の40%未満とならないよう配慮する」と定めています。今、そのために男女共同参画係では、女性の人材バンク登録者を新しく募集しています。みなさんぜひ応募してください。

Q

市長としてはではなく、「二人の男性」として伺います。男女共同参画社会に対するお考えと、実際にご家庭ではどのような様子なのでしょうか

妻が最近男女共同参画フォーラムなど色々な会議などに、積極的に参加するようにになりました。農業中心だった生活から、意識改革が始まったようで、そのような環境の下、少しずつ妻から教育的指導を受けております(笑)。我が家での私の日課は、毎朝仏様へお茶と水を与えることです。そして時間のある時には、妻と一緒に農業をすることも。妻はこれが一番うれしいらしいですね。普段は忙しいばかりで、やさしい言葉もかけられず、こうと決めたらなかなか軌道修正できない戦前生まれですが、まずは我が家で、できることから男女共同参画を実践していきたいと考えています。

Q

最後に、1回目の情報誌を発行するわけですが、男女共同参画社会を定着させるためには、どれくらいの期間を要するかと考えておられますか

情報誌については、「広報せんだい」に入れこむ形で、全世帯に配布します。本当に男女共同参画社会になったと実

感できるところまで：つまり市民一人ひとり、全ての人々が輝いていられる「21世紀に花咲く川内づくり」が私の目標ですから、到達するまでは根気強く広報活動が続けていく考えです。到達スピードを上げることも必要ですが、内容の充実も不可欠の条件ですから、まずは5年間を目標に取り組んでいきたいと考えています。

市長インタビューを終えて

公務多忙な中、私たち編集委員のインタビューに、終始にこやかに答えてくださった市長。穏かな口調ながら自信に溢れたその姿に、勇気と元氣をもらえたひとときでした。男女共同参画社会実現のため「がんばるぞー」。



次回は、子育て支援事業について特集します。どうぞお楽しみに！